

(4) 専門分野Ⅱ

【ねらいと構成】

成人看護学では、青年期から壮年期、向老期にある人を対象とする。成人の成長発達や健康問題の特徴を学習するとともに、大人として、また生活者としての成人の特徴を理解する。対象の健康上の問題をセルフケアの視点からとらえ、経過・健康レベルに応じた看護支援のアプローチを学習する。

専門分野Ⅱ	成人看護学 6単位	成人看護特性論	1単位 15時間	成人の成長発達／生活者、大人としての成人の特徴 成人期の健康障害／成人の保健活動	
		成人看護方法Ⅰ	1単位 30時間	成人への看護の概念 周術期にある対象の看護	
		成人看護方法Ⅱ	1単位 30時間	健康危機状況にある対象の看護	
		成人看護方法Ⅲ	1単位 30時間	セルフケア再獲得を目指す対象の看護	
		成人看護方法Ⅳ	1単位 30時間	セルフマネジメント支援を必要としている対象への看護	
		成人看護方法Ⅴ	1単位 30時間	終末期にある対象の看護 看護過程の展開	
		老年看護学 4単位			
		小児看護学 4単位			
		母性看護学 4単位			
		精神看護学 4単位			
	臨地実習 16単位	成人看護学実習Ⅰ	2単位 90時間	健康危機状況にある対象の看護を実践する	
		成人看護学実習Ⅱ	2単位 90時間	セルフケア再獲得を目指す対象の看護を実践する	
		成人看護学実習Ⅲ	2単位 90時間	セルフマネジメント支援を必要としている対象の看護を実践する	
		老年看護学実習Ⅰ	2単位 90時間		
		老年看護学実習Ⅱ	2単位 90時間		
		小児看護学実習	2単位 90時間		
母性看護学実習		2単位 90時間			
精神看護学実習		2単位 90時間			
38単位		16単位			

科目群: 専門分野Ⅱ

3年度	授業科目	成人看護特性論	担当教員	石川 暁美 杉田 久美子	単位(時間数)	1(15)
第1学年					担当時間数	15
【石川暁美】						
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験16年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病棟勤務での成人期の看護の経験に基づいた講義により、成人期にある対象の看護を学ぶ。				
学習目的・目標	<p>目的: 成人看護の対象を理解し、健康を保持・増進するための看護を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 成人各期の身体的・精神的・社会的特徴と、発達段階、発達課題を理解する。 2. 成人の生活を学び、健康障害の特徴を理解する。 3. 成人の健康の保持・増進のための看護援助を理解する。</p>					
回数	月日	学習内容	担当	方法	場所	教科書
1	/	1. 成人各期の成長発達と身体的特徴	石川	講義	教室	①
2	/	2. 成人の生活と健康障害の特徴(1)	石川	グループワーク	教室	①
3	/	3. 成人の学習の特徴	石川	講義	教室	①
4	/	4. 成人の生活と健康障害の特徴(2)	石川	発表会	教室	①
5	/	5. 成人看護学に有用な概念(1)	石川	講義	教室	①
6	/	6. 成人看護学に有用な概念(2)	石川	講義	教室	①
7	/	7. 成人の保健活動の実際	杉田	講義	教室	②③
8	/	試験				
評価方法	試験で評価する。試験は45分で実施し、配点は100点とする。					
教科書	①メディカ出版 ナーシンググラフィカ 『成人看護学概論』 ②メディックメディア 公衆衛生がみえる 2020-2021 ③『国民衛生の動向 (2020/21年度版)』					
参考書						
履修上の留意点						

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門分野Ⅱ

4年度	授業科目	成人看護方法Ⅰ	担当 教員	石川 暁美(1~9、15回) 大迫 さとみ(10、11、12回) 長谷部 純子(13、14回)	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【大迫さとみ】		看護師臨床経験34年				
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験34年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(外科病棟)での臨床経験に基づいた周術期にある患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。				
【長谷部純子】		看護師臨床経験18年、皮膚・排泄ケア認定看護師1年				
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験18年、皮膚・排泄ケア認定看護師1年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(外科病棟)での臨床経験に基づいた人工肛門造設術を受けた患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。				
【石川暁美】		看護師臨床経験16年				
授業科目に関連した実務経験の内容		看護師臨床経験16年				
実務経験を活かした実践的な授業内容		病院勤務(整形外科病棟)での臨床経験に基づいた周術期にある患者の看護の講義により、周術期にある対象の看護援助を学ぶ。				
学習目的・目標	目的: 周術期にある対象の看護援助を学ぶ。 目標: 1. 周術期にある対象の身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2. 手術による生体反応の変化と回復過程を理解する。 3. 手術前の身体や心の準備に対する援助を理解する。 4. 手術後の合併症に対する援助を理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	教科書	
1	/	1. 周術期の看護の概念 2. 麻酔と看護	講義	教室	①②	
2	/	3. 術前の看護 ・術前患者のアセスメント、術前訓練 ・前日・当日の看護 4. 術中の看護 ・入室中の看護、麻酔導入時の看護 ・手術室看護師の役割、手術終了時の看護	講義	教室	①②	
3	/	5-1. 術後の看護(手術侵襲と生体反応の変化) ・神経・内分泌系の反応、代謝系の反応、ムアアの分類 ・消化器系・呼吸器系への影響	講義	教室	①②	
4	/	5-2. 術後の看護(手術侵襲と生体反応の変化) ・創傷の治癒過程、創傷処置	講義	教室	①②	
5	/	6. 手術後の看護 ・術後のベッド作成 ・ドレーン・胃管の管理、低圧持続吸引の管理	校内実習	実習室	①②⑤	
6	/	7. 手術後の看護 ・術後合併症	講義	教室	①②	
7	/	8-1. 看護過程の展開(胃癌で手術を受けた患者の事例)	講義	教室	①②③	
8	/	8-2. 看護過程の展開(胃癌で手術を受けた患者の事例)	講義	教室	①②③	
9	/	8-3. 看護過程の展開(胃癌で手術を受けた患者の事例)	講義	教室	①②③	
10 11	/	9. 胃癌で手術を受けた患者の看護 ・胃切除術後の食事指導	講義	教室	①②③	
12	/	10. 乳癌で手術を受けた患者の看護	講義	教室	①②④	
13 14	/	11. 直腸癌で人工肛門造設術を受けた患者の看護 ・人工肛門造設術後の排便の自己管理	講義	教室	①②③	

15	/	試験、授業のまとめ		教室
評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は100点です。 (1～9回目の範囲が30分で60点、10・11・12回目の範囲が10分で25点、13・14回目の範囲が5分で15点)			
教科書	①メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『周術期看護』成人看護学④ ②秀和システム 看護の現場ですぐに役立つ術前・術後ケアの基本 ③医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 『消化器』成人看護学 5 ④医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 『女性生殖器』成人看護学 9 ⑤インターメディカ 『写真でわかる臨床看護技術②』			
参考書				
履修上の留意点				

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門分野Ⅱ

4年度	授業科目	成人看護方法Ⅱ	担当 教員	今井 清美 (1~3回) 小宮山 晴美 (4~11、15回) 内田 ひかり (12~14回)	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【今井清美】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験18年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(血液内科病棟)での経験に基づいた講義により、健康危機状態にある対象の特徴と看護援助を学ぶ。				
【小宮山晴美】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験28年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(循環器病棟)での経験に基づいた講義により、健康危機状態にある対象の特徴と看護援助を学ぶ。				
【内田ひかり】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験7年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(外科病棟)での経験に基づいた講義により、健康危機状態にある対象の特徴と看護援助を学ぶ。				
学習 目的 ・ 目標	目的: 健康危機状況にある対象の看護援助を学ぶ。 目標: 1. 健康危機状況にある対象に生じるセルフケア不足を理解する。 2. 健康危機状況における看護援助を理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	教科書	
1	/	1. 健康危機状況にある対象に生じるセルフケア不足	講義	教室	①	
2	/	2. 血液・造血器疾患の患者の看護 ・鉄欠乏性貧血の患者の看護 ・再生不良生貧血の患者の看護	講義	教室	③	
3	/	3. 血液・造血器疾患の患者の看護 ・急性骨髄性白血病の患者の看護	講義	教室	③	
4	/	4. 虚血性心疾患の患者の看護(心筋梗塞の事例) ・疾患と病態の理解	講義 GW	教室	②	
5	/	5. 虚血性心疾患の患者の看護(心筋梗塞の事例) ・検査と治療の意味	講義 GW	教室	②	
6	/	6. 虚血性心疾患の患者の看護(心筋梗塞の事例) ・アセスメントと看護	講義 GW	教室	②	
7	/	7. 虚血性心疾患の患者の看護 ・まとめ:心筋梗塞の治療と看護	講義 GW	教室	②	
8	/	8. 弁膜症で心不全の患者の看護(心不全の事例) ・疾患の理解	講義	教室	②	
9	/	9. 弁膜症で心不全の患者の看護 ・検査と治療の意味	講義	教室	②	
10	/	10. 弁膜症で心不全の患者の看護 ・アセスメントと看護	講義	教室	②	
11	/	11. 不整脈の患者の看護 ・心電図とは ・不整脈の治療と看護	講義	教室	②	
12	/	12. 不整脈の患者の看護 ・心電図検査時の看護の実践	校内実習	実習室	②④	
13 14	/	13. 人工呼吸器を装着した患者の看護 ・気管内吸引法の実践	校内実習	実習室	②④	
15	/	試験、授業のまとめ		教室		

評価方法	試験と課題で総合評価します。 試験は45分で実施し、配点は100点です。(1～3回目の範囲が10分で15点、4～11回目の範囲が25分で60点、12～14回目の範囲が10分で15点)
教科書	①メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『健康危機状況／セルフケアの再獲得』 成人看護学② ②医学書院 系統看護学講座 『循環器』 成人看護学3 ③医学書院 系統看護学講座 『血液・造血器』 成人看護学4 ④インターメディカ 『写真でわかる臨床看護技術②』
参考書	
履修上の留意点	

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門分野Ⅱ

4年度	授業科目	成人看護方法Ⅲ	担当 教員	笹尾 みゆき(1回) 石川 由香(2~5回) 糟谷 由美子(6~12、15回) 畑中 英子 (13、14回)	単位(時間数)	1(30)	
第2学年				担当時間数	30		
【笹尾みゆき】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験16年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		整形外科病棟での4年半の勤務経験をにに基づいた具体的な場面を用いた講義を行い、セルフケア再獲得についての看護を学ぶ。					
【石川由香】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験25年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(整形外科病棟)での経験に基づいた講義により、セルフケア再獲得にある対象の特徴とセルフケア再獲得を支援する看護援助を学ぶ。					
【糟谷由美子】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験25年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(内科病棟)での経験に基づいた講義により、セルフケア再獲得にある対象の特徴とセルフケア再獲得を支援する看護援助を学ぶ。					
【畑中英子】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験38年、摂食・嚥下障害看護認定看護師12年					
実務経験を活かした 実践的な授業内容		摂食・嚥下障害看護認定看護師としての経験に基づいて、麻痺・意識障害のある患者の看護援助の具体的な方法を講義・演習に取り入れている。					
学習 目的 ・ 目標	目的: セルフケア再獲得を目指す対象の看護を学ぶ。 目標: 1. セルフケア低下状態にある成人の理解 2. セルフケア再獲得を支援する看護援助を理解する。						
回数	月日	学習内容			方法	場所	教科書
1	/	1. 成人にとってのセルフケア再獲得 2. 運動器疾患を持つ患者の看護 ・看護の役割 ・援助のためのおもな知識と技術			講義	教室	③
2	/	3. 骨折とは、転位、骨折治癒 4. 保存療法を受ける患者の看護			講義	教室	③
3	/	5. 大腿骨頸部骨折の患者の看護 ・手術を受ける患者の看護			講義	教室	③
4	/	6. 脊髄損傷患者の看護 ・急性期～慢性期			講義	教室	③
5	/	7. 関節リウマチ患者の看護			講義	教室	①③
6	/	8. 生活基本行動レベルのセルフケアの低下と再獲得			講義	教室	①
7	/	9. 脳血管障害の患者の看護 ・意識障害のある患者の看護			講義	教室	①②
8	/	10. 脳血管障害の患者の看護 ・頭蓋内圧亢進、呼吸障害のある患者の看護			講義	教室	①②
9	/	11. 脳血管障害の患者の看護 ・運動麻痺、感覚障害のある患者の看護			講義	教室	①②
10	/	12. 脳血管障害の患者の看護 ・高次脳機能障害のある患者の看護			講義	教室	①②
11	/	13. くも膜下出血の患者の看護① ・手術を受ける患者の看護			講義	教室	①②

12	/	13.くも膜下出血の患者の看護② ・手術を受ける患者の看護	講義	教室	①②
13 14	/	14. 脳血管障害の患者の看護 ・麻痺・意識障害のある患者の嚥下体操、口腔ケア	校内実習	実習室	①②
15	/	試験、授業のまとめ			
評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は糟谷先生20分で45点、畑中先生10分で15点、石川先生15分で40点です。				
教科書	①メディカ出版 ナーシンググラフィカ『健康危機状況/セルフケアの再獲得』成人看護学② ②医学書院 系統看護学講座『脳・神経』成人看護学7 ③医学書院 系統看護学講座『運動器』成人看護学10				
参考書					
履修上の留意点					

※実務経験は令和3年4月1日現在



科目群: 専門分野 II

4年度	授業科目	成人看護方法IV	担当 教員	近藤 ゆかり(1,2,9回) 安藤 依里(3~8,10~14、15回)	単位(時間数)	1(30)
第2学年					担当時間数	30
【安藤依里】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験30年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(内科病棟)での経験に基づいた講義により、セルフマネジメント支援を必要としている対象の特徴と支援を必要としている対象の援助方法を学ぶ。				
【近藤ゆかり】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験6年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(外科病棟)での経験に基づいた講義により、セルフマネジメント支援を必要としている対象の特徴と支援を必要としている対象の援助方法を学ぶ。				
学習 目的 ・ 目 標	目的: セルフマネジメント支援を必要としている対象の看護を学ぶ。 目標: 1. セルフマネジメントの過程を理解する。 2. セルフマネジメント支援を必要としている対象の理解をする。 3. セルフマネジメント支援を必要としている対象の援助方法を理解する。 4. セルフマネジメント支援を必要としている対象の評価のしかたを理解する。					
回数	月日	学習内容	方法	場所	教科書	
1	/	1. セルフマネジメントとは 2. セルフマネジメントのための対象理解	事前課題 講義	教室	①	
2	/	3. セルフマネジメントの過程 ・対象理解・援助方法・評価の仕方	講義	教室	①	
3	/	4. 糖尿病に関する知識 ・定義と診断基準・検査	講義	教室	①②	
4	/	・糖尿病患者の治療(食事療法・運動療法・薬物療法)	講義	教室	①②	
5	/	5. 糖尿病患者の看護 ・ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント ・看護目標・看護活動	講義	教室	①②	
6	/	6. 糖尿病をもつクライアントのセルフマネジメント事例	講義	教室	①②	
7	/	7.パンフレット・ポスターの作り方	講義	教室	①②	
8	/	8. 糖尿病患者の看護 ・パンフレット指導の実際	講義	教室	①②	
9	/	9. 血糖自己測定実施への援助(学内実習)	講義 校内実習	実習室	①②④	
10	/	10. 腎臓と腎不全に関する知識 ・症状と病態・検査・診断・治療	講義	教室	①③	
11	/	・CKD患者の食事管理	講義	教室	①③	
12	/	11. 腎不全のクライアントのセルフマネジメント事例	講義	教室	①③	
13	/	12. 慢性腎臓病(CKD)患者の看護計画 ・血液透析患者の看護計画	講義	教室	①③	
14	/	・透析とセルフケア 透析の原理と条件・透析と日常生活について	講義	教室	①③	
15	/	試験、授業のまとめ				
評価方法	試験と課題で総合評価します。試験は45分で実施し、配点は安藤先生35分で80点、近藤先生10分で20点です。					

教科書	①メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『セルフマネジメント』成人看護学③ ②医学書院 系統看護学講座『内分泌・代謝』成人看護学6 ③医学書院 系統看護学講座『腎・泌尿器』成人看護学8 ④インターメディカ『写真でわかる臨床看護技術①』
参考書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『成人看護学概論』成人看護学①
履修上の留意点	課題の提出は、指定日・時間を厳守する。

※実務経験は令和3年4月1日現在

科目群: 専門分野Ⅱ

4年度 第2学年	授業 科目	成人看護方法Ⅴ	担当 教員	田境 公治(1~8回) 中村 睦美(9~15回)	単位(時間数)	1(30)
					担当時間数	30
【田境公治】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験19年、がん性疼痛看護認定看護師経験2年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		がん性疼痛看護認定看護師としての経験に基づいた講義により、終末期にある対象の特徴と援助方法を学ぶ。				
【中村睦美】 授業科目に関連した 実務経験の内容		看護師臨床経験9年				
実務経験を活かした 実践的な授業内容		病院勤務(循環器・呼吸器病棟)での呼吸器疾患の患者への看護経験に基づいて、看護過程の展開の方法を講義する。				
学習 目的 ・ 目標	<p>目的: 終末期にある対象の看護を学ぶ。また、事例を通して看護過程の展開を学ぶ。</p> <p>目標: 1. 終末期患者の健康危機状況の特徴を理解する。 2. 癌治療に伴う看護を理解する。 3. 終末期患者の緩和ケアを理解する。 4. 肺気腫の事例を通して看護過程の展開する。</p>					
回数	月日	学習内容	方法	場所	教科書	
1	/	1. 終末期患者の健康危機状況の特徴 ・死の受容過程、リビングウィル、QOL	講義	教室	①⑤	
2	/	・全人的苦痛のアセスメント、痛みのコントロール				
3	/	2. 子宮癌患者の看護 ・がん患者の理解 ・抗がん剤治療時の看護	講義	教室	①②⑤	
4	/	3. 子宮癌患者の看護 ・放射線治療時の看護	講義	教室	①②⑤	
5	/	4. 肝硬変患者の看護 ・食道静脈瘤破裂時の看護	講義	教室	③⑤	
6	/	5. 肝細胞癌患者の看護 ・肝細胞癌患者の治療と看護	講義	教室	③⑤	
7	/	6. 肝細胞癌患者の看護 ・患者の苦悩、緩和ケア	講義	教室	①③⑤	
8	/	7. 肝細胞癌患者の看護 ・家族の抱える問題、鎮静をめぐる家族の葛藤と決断 ・死後の処置	講義	教室	①③⑤	
9	/	8-1. 看護過程の展開(肺気腫の事例)	講義	教室	④⑥	
10	/	8-2. 看護過程の展開(肺気腫の事例)	講義	教室	④⑥	
11	/	8-3. 看護過程の展開(肺気腫の事例)	講義	教室	④⑥	
12	/	8-4. 看護過程の展開(肺気腫の事例)	講義	教室	④⑥	
13	/	8-5. 看護過程の展開(肺気腫の事例)	講義	教室	④⑥	
14	/	8-6. 看護過程の展開(肺気腫の事例)	講義	教室	④⑥	
15	/	8-7. 看護過程の展開(肺気腫の事例)	講義	教室	④⑥	
研修	/	試験				

評価方法	「終末期看護」は60点分を45分の筆記試験で評価する。「看護過程」は40点分を課題で評価する。ただし、評価の時期は各講師授業終了時とする。各講師毎に再試験、単位認定試験まで行う。各講師毎の得点の合計を授業科目の評価とする。
教科書	①メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 『健康危機状況/セルフケアの再獲得』 成人看護学② ②医学書院 系統看護学講座 『女性生殖器』 成人看護学9 ③医学書院 系統看護学講座 『消化器』 成人看護学5 ④医学書院 系統看護学講座 『呼吸器』 成人看護学2 ⑤ヌーベルヒロカワ 緩和・ターミナルケア看護論 ⑥メディックメディア 病気がみえるvol. 4 呼吸器
参考書	
履修上の留意点	

※実務経験は令和3年4月1日現在